

バッファの必要性について(まとめ)

今まで、拙著本文中に「バッファ」について何ヶ所か言及したが、散発的な記載となつてしまっているので、整理・整頓・清潔・清掃・舐めてみることにした。

まずは、バッファの定義から。言うまでもなく、著名な音楽家のことではない。バッファとは、物理的な急激な変化・変動を吸収・緩和する緩衝器と定義される。例えると

- ・プリンターバッファ：P C ⇔ プリンター
- ・P C のキャッシュメモリ：C P U ⇔ 記憶装置
- ・自動車のショックアブソーバー
- ・自動車のハンドルの遊び
- ・洪水災害回避を目的(用途)としたダム
- ・コンデンサー(電子回路)電圧安定、ノイズ除去

・・・枚挙に暇がない。多くの事例が、ユーザーにバッファとして意識されずに利用されているのであろう。設計者もバッファを意識したと言うより、不確定な変動に対処する術の一つとしてそれらの機能を利用し、結果としてバッファとなっているのであろう。

もし、それらの機能(バッファとして)が無ければ、どうなっていたらだろうと想像すると、恐ろしいことになる。例えば自動車のハンドルの遊び。無いと突発的なやむを得ないハンドル操作により、車輻がスピンしたり横転したりして、運転者ならびに同乗者の生命を危険に晒すことになる。また他の通行車輻を巻添えにし、それらの運転者や同乗者の生命さえも危険に晒すことになりかねない。また通行人がいれば、その方達の生命を危険に晒す可能性も十分あり得る。車輻が制御不能な状態になり得ることが、その所以。

もう一つ、自動車のショックアブソーバ。無いと、路面の凹凸に車輻が過敏に反応し、飛び跳ねることになる。その第一義的弊害は、制動効果の顕著な減退。その結果、自他の生命を危険に晒す可能性や危害を与える可能性が発生する。対物的にも同様である。二義的には、その車輻の燃費が著しく悪化すること。何れにしてもその要因は車輻と路面の接触が激減することによる。つまりそれは、タイヤの摩擦を十分利用できないことである。以上2例だが、バッファが無いことによる弊害は、他にも容易に想像は可能である。

ハード面を主体に述べてきたが、ソフト面にもその必要性はあるし、実際その機能は既存している。経済の一例：各種の引当金・準備金。等々。これらも枚挙に暇がない。

賢明なる読者各位におかれましては、数多のソフト・ハード事例およびその有効性や必要性は十分ご承知であろうし、とやかく説明するのも釈迦に説法となるに相違ない。

振り返って足元を見直すと、当書はお鮭の本である。お鮭に何故「バッファ」が必要かそれは、素材(ネタ)の調達に他ならない。米や酢やわさび等の生産は比較的安定していて変動の幅は僅かであつて、調達の懸念とはならない。しかしネタの多く(鮮魚介類)はその主な生産手段が漁獲である限り、毎日大きく変動する。事実であるし、例外はない。

では、需要側には変動要素が無いのか? 答えは大いにある。今が旬で、大漁で、安価でも毎日毎食同じものはいらぬ。というのが消費者の偽らざる本音である。需要と供給が大きく変動しあつている。その何れも相関関係はなく、各々独立した事象である。マッチするはずがないし、旧態依然の方法では、改善の余地は全くない。そこで(流通)バッファが必要となる。=活で在庫を持つ=蓄養である。蓄養は

- ①流通バッファ(漁獲のバラツキと需要・消費のバラツキの緩衝)
 - ②育成(幼魚を成魚に育てる。養殖と同義)
 - ③付加価値を与える(太らせる。脂のせる。休ませる。洗浄する等)
- に細分化(分類)され、それらの複合もあり得ると考えられる。その最も簡便な実現方法は「2ピン法」である。(検索してみてネ)

人間にもバッファは必要である。簡潔に述べれば、度量の大きさや器の大きさと表現されるのであろう。そうあるべきと思うが、なかなか難しい。他人に厳しく、自分に大甘な当執筆者には、それを主張する資格や人間の幅は持ち合わせていなかった。